

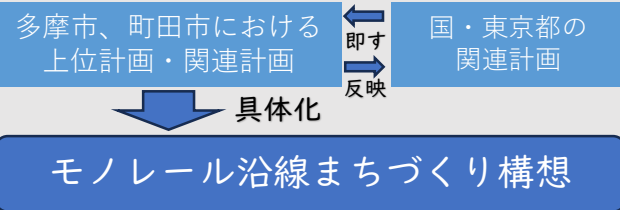
「モノレール沿線まちづくり構想素案」(概要版)

I 構想策定の概要

構想策定の目的

モノレール沿線地域において、多摩市、町田市両市の基本構想で掲げるまちの姿を実現するためにモノレールは必要不可欠な都市インフラであり、モノレールが走るまちの将来像やその実現に向けたまちづくりの方向性、段階的な取組方針を明らかにする。

構想の位置づけ



多摩都市モノレール延伸の概要

東京都は、2019年(令和元年)より検討を行い、2021年(令和3年)に延長約16kmの延伸ルート※を選定しました。



※ルート検討委員会検討結果では、収支採算性の異なる種差帯の結果によっては、他のルート案をあらためて検討することもあるとされています。

II 沿線の現状と課題

※主なものを掲載

多摩センター駅周辺

- 「暮らしやすさ・過ごしやすさ」に係る課題
 - まちの回遊しやすさと回遊の楽しさの向上
 - 商業の更なる魅力向上
 - みどり、憩いの空間の更新
- 「移動の利便性」に係る課題

みどり

- みどり(里山・緑地等)の活用

住まい

- 良好な住まいづくり
- 子育てしやすい環境づくり
- 団地の魅力向上
- など

移動の利便性(バス)

- バス網の維持・発展
- バスの定時性確保

町田駅周辺

- 「暮らしやすさ・過ごしやすさ」に係る課題
 - まち全体の回遊性の向上や賑わいの広がり
 - まちの魅力を上向きさせる都市機能の誘導
- 「移動の利便性」に係る課題

沿線市の土地利用の特徴

III モノレールの特性と期待される人やまちへの効果

モノレールの特性

- 輸送力の向上
- 定時性・速達性の向上
- 環境にやさしい
- 乗り換えなしで行き来
- 新たに駅が整備



期待される人やまちへの効果

「暮らしやすさ・過ごしやすさ」に係る効果

- 都市間交流が進み、地域全体が発展する
- 移動の信頼性が高まり、住む場所としての価値や、訪れたい場所としての安心感が高まる
- 駅周辺において、新たな人の流れや都市機能の集積が起こる

「移動の利便性」に係る効果

- 移動がしやすく、快適になる
- 心理的、時間的な負担が軽減し、移動がしやすくなる
- 駅利用者の利便性が高まる

IV 目指す沿線のビジョン

沿線のビジョン

第II章で整理した「沿線地域の課題」を解消するとともに、第III章「モノレールの特性と期待される人やまちへの効果」を踏まえて、目指す沿線のビジョンを定めました。

『みんなが安心して快適に住み続けられるわたしの“ココちよさ”がかなうまち』

沿線の移動の利便性が高い

誰もがモノレールやバスなど公共交通を気軽に利用できて目的地までアクセスしやすい

沿線が暮らしやすい・過ごしやすい

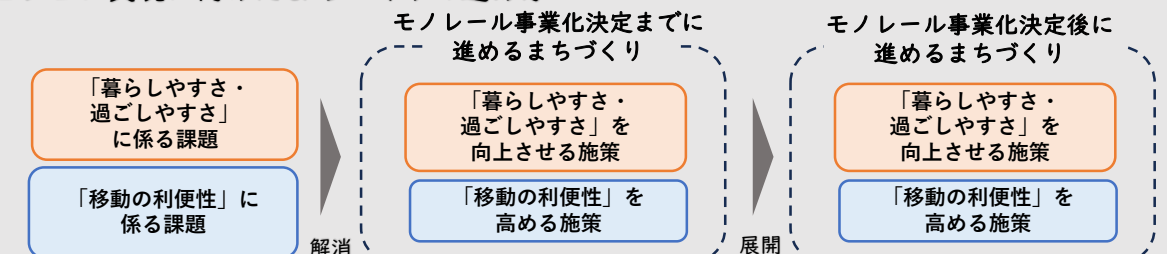
住まいが幅広い多世代のニーズに対応している

地域の特性に合わせて、都市機能がバランスよく整っている

誰でも気軽にみどりにふれることができ、みどりを活かした交流が生まれている

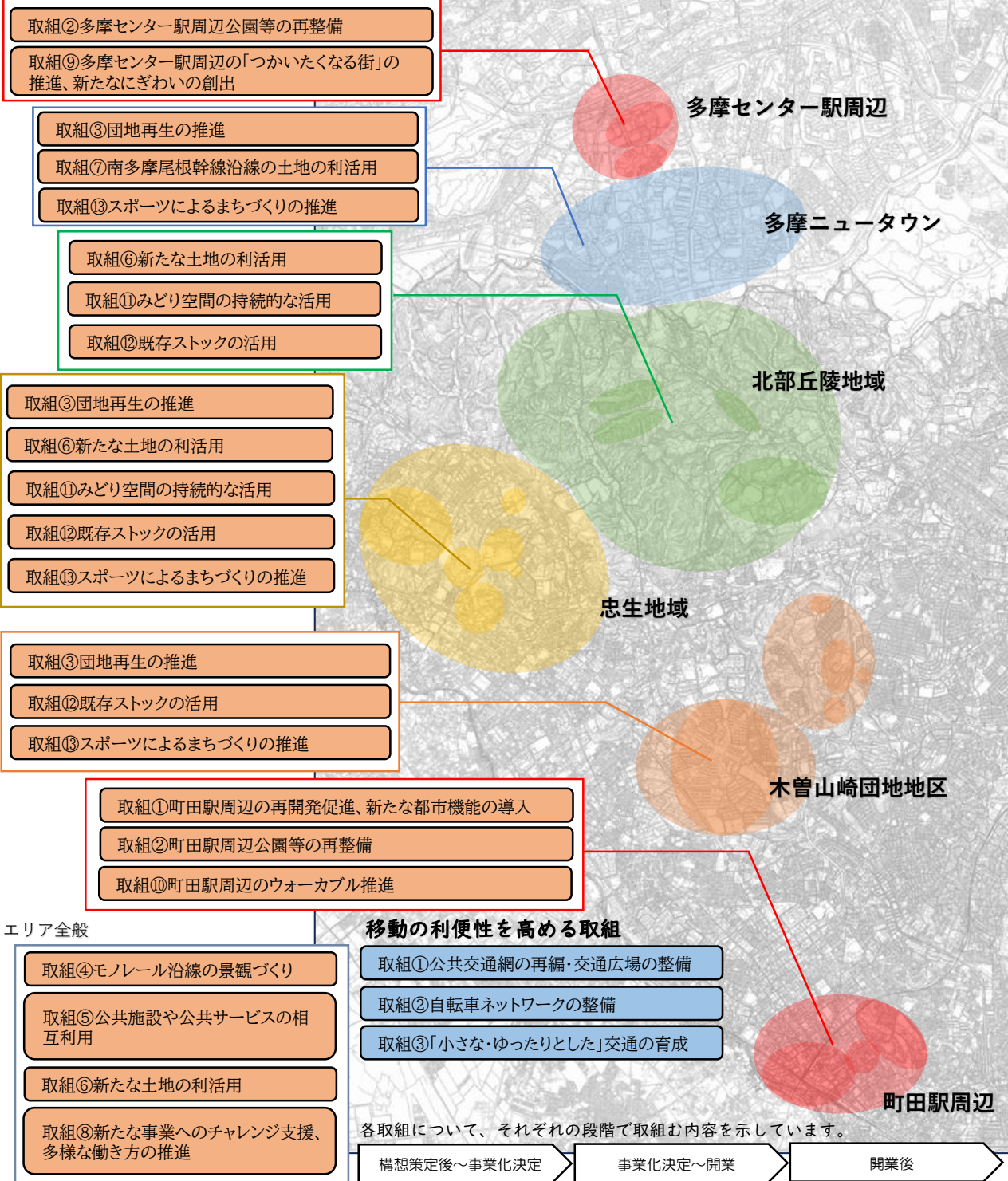
多摩センター駅や町田駅周辺の魅力が高まり、にぎわいがあふれている

ビジョン実現に向けたまちづくりの進め方

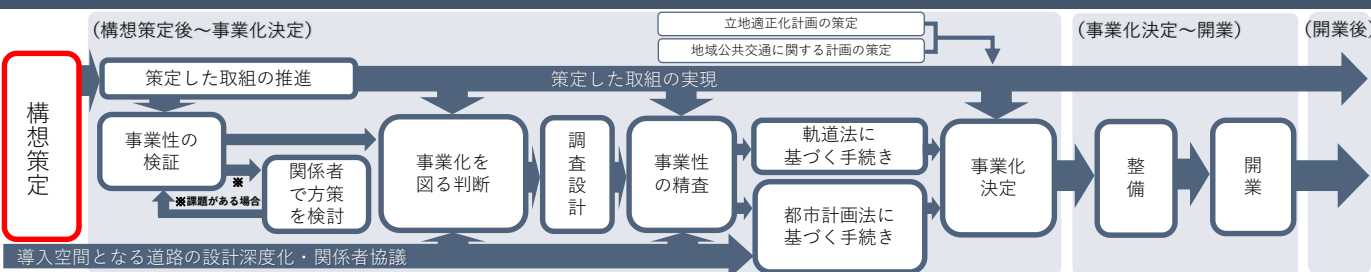


V ビジョンを実現するための施策

暮らしやすさ・過ごしやすさを向上させるエリアごとの取組



VI 開業までのプロセス



沿線ビジョンのイメージ図 (モノレールによるエリアのつながりと各エリアの将来イメージ)

